青森市埋蔵文化財調査報告書　第80集

合子沢松森(2)遺跡

発掘調査概報

平成16年度

青森市教育委員会

序

青森市教育委員会では、今年度、東北新幹線建設工事に係る合子沢松森（2）遺跡の発掘調査を実施いたしました。

調査の結果、竪穴住居跡、土器埋設遺構、溝跡などの遺構や土師器や須恵器などの遺物を確認し、本遺跡は、平安時代を主体とする遺跡であることが判明しました。

本書はこれら調査成果について、写真図版等を多用した発掘調査概報としてまとめたものであります。本書が埋蔵文化財の保護・活用、歴史学習等、研究者はもとより市民の皆様にとりまして、いささかでも役立つことができれば幸いと存じます。

調査の終始にわたる関係機関並びに各位のご指導、地元町会からのご理解、ご協力に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成17年３月

青森市教育委員会

教育長　角　田　詮二郎

例 言

1．本書は、青森市教育委員会が平成16年度に実施した東北新幹線建設工事に係る合子沢松森（2）遺跡発掘調査の概要報告書である。
2．合子沢松森（2）遺跡発掘調査は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構の委託を受け実施した。
3．合子沢松森（2）遺跡の遺跡番号は、01262である。
4．発掘調査報告書は、調査対象区域全体の発掘調査完了後に刊行する予定である。
5．本書の執筆並びに編集は、青森市教育委員会が行ない、小野貴之が担当した。
6．発掘調査の実施にあたって次の機関からご指導・ご協力をいただいた。記して謝意を表する。

青森県教育庁文化財保護課、青森県埋蔵文化財調査センター、青森県立郷土館、南部二区連合町会

目 次

序

例言

目次

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

合子沢松森（2）遺跡と周辺の遺跡 ・・・・ 2

今年度の調査から ・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

検出遺構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

出土遺物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

は　じ　め　に

平成10年3月に工事認可となった東北新幹線八戸－新青森間（81.2km）の建設は、現在、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（旧日本鉄道建設公団、以下鉄道・運輸機構と称す）のもと、当初予定より2年早い平成22年度末の開業を目指して工事が進められています。平成17年2月27日には、工区の約1／3に相当する八甲田トンネル（26.455km）が、工区着工から6年半の期間を経て貫通しました。

一方、工事予定地内には県内で30個所以上の遺跡が所在しており、これらの遺跡の対応については、鉄道・運輸機構と青森県文化財保護課、関係各機関で協議した結果、多数が記録保存を前提とした発掘調査の実施を必要としました。青森市でも発掘調査が必要な遺跡は、本遺跡をはじめ、朝日山（2）遺跡、三内遺跡、三内沢部（3）遺跡、新町野遺跡、高間（1）遺跡、新田（1）遺跡など多数あり、そのうち高間（1）遺跡や新田（1）遺跡等の石江遺跡群と新町野遺跡については、遺跡所在地である青森市教育委員会に調査が依頼されており、当委員会で既に発掘調査を実施しています。

合子沢松森（2）遺跡も工事予定地内の遺跡のひとつです。青森県文化財保護課による試掘・確認調査の結果、発掘調査が必要となり、鉄道・運輸機構から当委員会に調査が依頼されました。

当委員会では、埋蔵文化財保護行政と開発事業との円滑な調整を図るため、協議を重ね、その結果調査を受託することとし、青森市合子沢字松森に所在する合子沢松森（2）遺跡の発掘調査を8月19日から11月19日までの期間実施しました。

遺跡から見た建設現場

合子沢松森(2)遺跡と周辺の遺跡

本遺跡が所在する青森市は、東西約10km、南北約5kmに広がる三角形状の青森平野を中心としており、北側には青森湾が広がっています。この平野は、東側で東岳を中心とする山地、南東から南側で火山性の台地、西側で緩やかな丘陵と、三方を山地や丘陵に取り囲まれています。

東側の山地は、奥羽山脈の延長部にあたり、夏泊半島の山地へと続いています。険しい山地で、市内でも比較的古い地層の見られる地点です。

南東側から南側は、八甲田山の噴火によってできた火山性の台地です。荒川、横内川、駒込川等の市内を北流する複数の河川によって侵食され、市内に向かって舌状に突き出しています。

西側は、大釈迦から続く緩やかな丘陵です。この丘陵と平野部や南側の火山性台地とは、市内を南北に走る「入内断層」によって区切られています。

本遺跡は、合子沢の稲荷神社から南へ200mほど向かった合子沢川の西側、青森市大字合子沢字松森にあります。地形的には、市内南部の火山性台地が、合子沢川の流れによって削られ、段上になった河岸段丘上に位置しています。標高は35～50mです。

青森市には多数の遺跡があり、その数は平成17年度末で307個所にのぼります。

本遺跡の周辺にも様々な遺跡が見つかっています。付近の遺跡の多くは、本遺跡と同様に八甲田山の噴火によってできた台地上に立地しており、それらの中には、発掘調査が実施された遺跡もあります。

本遺跡の北西側約250mには、合子沢松森（1）遺跡があります。縄文時代の遺跡です。

西側約300mには、当委員会が現在発掘調査を実施している新町野遺跡があります。縄文時代と平安時代の集落跡でこれまでにも数回の調査が実施されており、竪穴住居跡や土坑、円形周溝などが見つかっています。

南西側約300mには中核工業団地造成に先立つ発掘調査で、平安時代の集落跡が見つかった野木（1）遺跡があります。多数の竪穴住居跡をはじめ鉄生産関連の遺構や、畠の跡と思われる畝状遺構、トイレ状遺構なども見つかっています。

本遺跡の東側1km以内には、横内（1）～（3）遺跡があります。横内（1）遺跡では、縄文時代前期末葉の集落跡が確認されたほか縄文時代早期の土器も見つかっています。横内（2）遺跡では、平安時代の竪穴住居跡や縄文時代前期後半から中期前半の土坑が見つかっています。また、東側約2kmの四ツ石（1）遺跡では、発掘調査で縄文時代後期前半の土器や様々な種類の土製品や石製品が見つかっています。

北東約2kmには大矢沢野田遺跡、約1kmには、横内城跡があります。大矢沢野田遺跡では、発掘調査で青森市内ではめずらしい縄文時代前期初頭の竪穴住居跡のほか、河川跡が見つかっています。横内城跡は、中世の城館跡です。

新町野遺跡（遺構検出状況）

新町野遺跡（遺物出土状況）

また、南東側約3kmの標高が100mを超える地点でも集落跡が見つかっています。桜峯（1）遺跡では、縄文時代前期末葉から中期初頭の集落跡が見つかっています。また、さらに標高の高い南側の青森公立大学付近では雲谷山吹（3）～（7）遺跡が所在しており、発掘調査によって平安時代の集落跡が見つかっています。

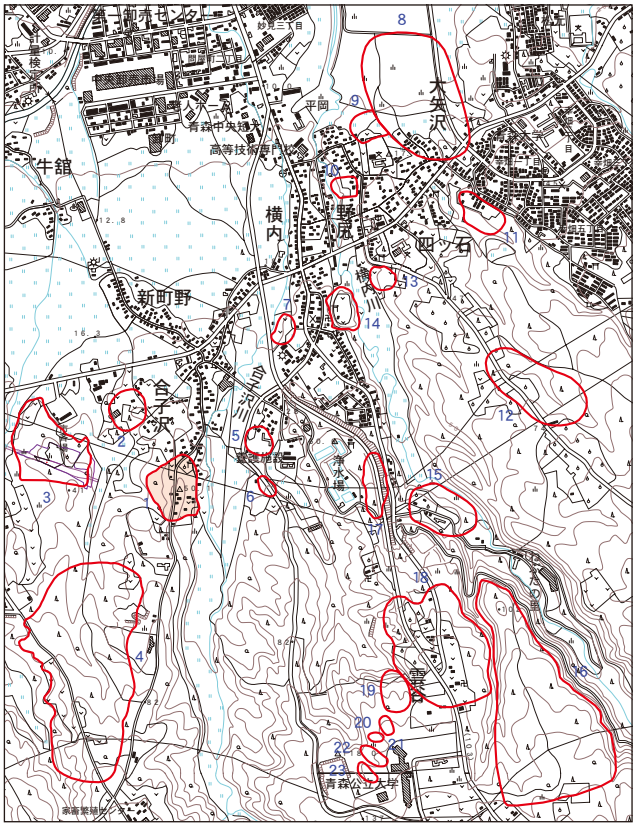
横内（1）遺跡（竪穴住居跡）

横内（2）遺跡（土坑）

大矢沢野田遺跡（河川跡）

桜峯（1）遺跡（竪穴住居跡）

周辺の遺跡



番号	遺跡名	所在地	種別	時代	遺跡番号
1	合子沢松森(2)遺跡	大字合子沢字松森	集落跡	平安	262
2	合子沢松森(1)遺跡	大字合子沢字松森	散布地	縄文	261
3	新町野遺跡	大字新町野字菅谷ほか	集落跡	縄文(前～後)、平安	161
4	野木(1)遺跡	大字野木字山口ほか	集落跡	縄文(前～晩)、続縄文、平安	210
5	横内(1)遺跡	大字合子沢字山崎	集落跡	縄文(早・晩)	164
6	横内(2)遺跡	大字合子沢字山崎	集落跡	縄文(前・中)、平安	206
7	横内(3)遺跡	大字横内字亀井	散布地	平安	293
8	大矢沢野田遺跡	大字大矢沢字野田	集落跡	縄文(早～後)、平安	292
9	野尻野田遺跡	大字野尻字野田	散布地	平安	283
10	野尻館遺跡	大字野尻字野田	城館跡	－	173
11	大矢沢里見遺跡	大字大矢沢字里見	散布地	縄文	236
12	四ツ石(1)遺跡	大字四ツ石字里見	散布地・集落跡・貝塚・生産施設	縄文(中・後)、平安	028
13	四ツ石(3)遺跡	大字四ツ石字里見	散布地	縄文	215
14	横内城跡	大字横内字亀井	城館跡	縄文、奈良、平安	174
15	横内猿沢(1)遺跡	大字横内字猿沢	散布地	平安	284
16	鏡山遺跡	大字横内字鏡山	散布地	縄文(前～後)	209
17	桜峯(2)遺跡	大字横内字桜峯ほか	集落跡	縄文(前～後)	208
18	桜峯(1)遺跡	大字横内字桜峯ほか	集落跡	縄文(前～晩)、続縄文、平安	207
19	雲谷山吹(3)遺跡	大字雲谷字山吹ほか	散布地	縄文	285
20	雲谷山吹(4)遺跡	大字合子沢字山崎	集落跡	縄文(中・晩)、近代	303
21	雲谷山吹(5)遺跡	大字合子沢字山崎	集落跡	縄文(後・晩)、平安	304
22	雲谷山吹(6)遺跡	大字合子沢字山崎	集落跡	縄文(後)、平安	305
23	雲谷山吹(7)遺跡	大字合子沢字山崎	集落跡	縄文(前)、平安	306

今年度の調査から

本遺跡の調査区は、東西方向が約150m、南北方向が一様ではありませんがおおむね30～70m程で、全調査対象面積は、約7,750㎡です。今年度はそのうち3,500㎡を調査しました。調査区の地形は、河岸段丘であるため、途中に2m前後の段差が見られます。調査前は、個所により山林、畑地、宅地といった状況でした。

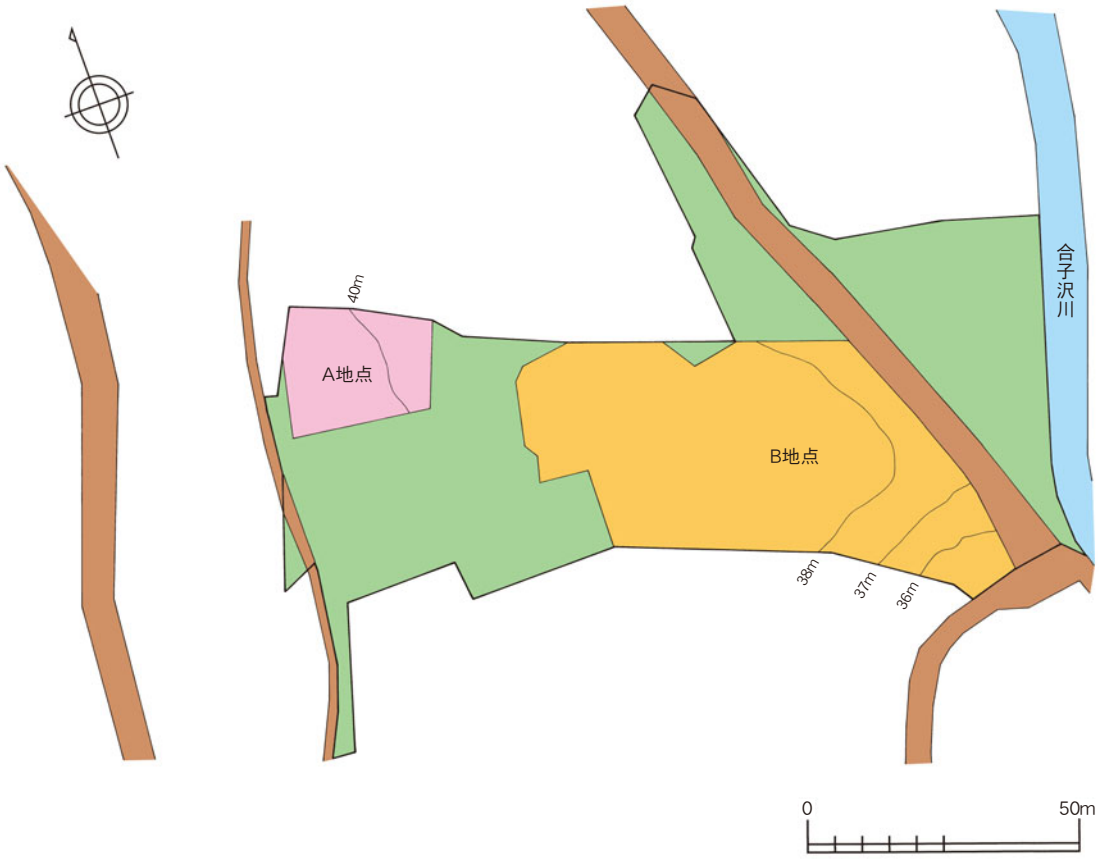
今年度の調査区は、西側A地点と東側B地点の2個所に分かれており、それぞれの地点はおおむね平坦な地形ですがA地点の標高が約40m、B地点の標高が約38mとA地点のほうがやや高くなっています。

今年度の調査で見つかった遺構は、竪穴住居跡、土坑、溝状土坑、焼土遺構、土器埋設遺構、溝跡、井戸跡、柱穴状ピットです。また、遺物は主に遺構内から出土しており、平安時代の土師器が多く、そのほか同じ平安時代の須恵器や縄文土器、石器、土製品、石製品、鉄関連遺物等ダンボール箱換算で25箱分が見つかっています。本遺跡では、平安時代の遺構や遺物が多く、平安時代の集落跡を主体とする遺跡です。

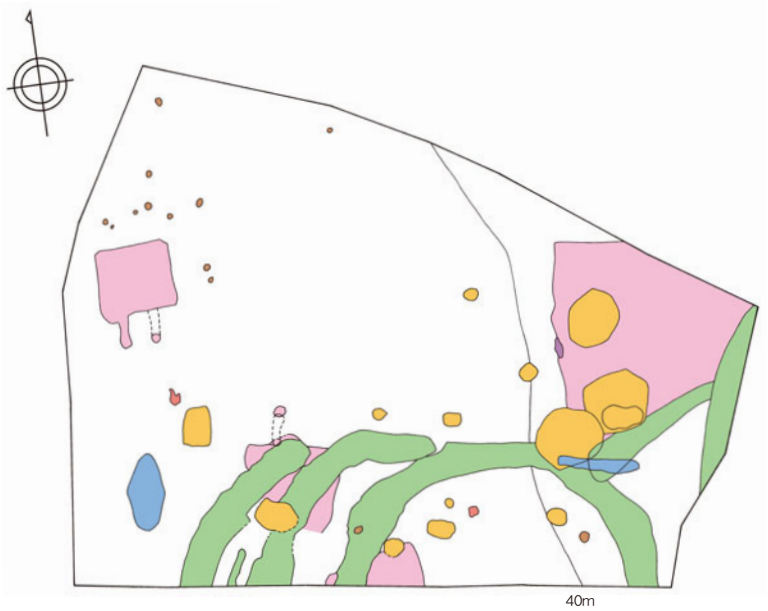
遺構は全体として、A、B両地点で竪穴住居跡と溝跡などの重複が見られますが、ややA地点の方で遺構密度が高いようです。また、B地点では、調査区の西側や南側斜面にはあまり遺構が見られず、中央部から東側にかけて遺構がまとまって見られます。

平安時代では、竪穴住居跡、土器埋設遺構、溝跡などが見つかっています。竪穴住居跡や溝跡は、両地点で見つかっています。土器埋設遺構は1基がA地点で見つかっています。

また、縄文時代と思われる遺構や縄文時代の遺物もわずかですが見つかっています。



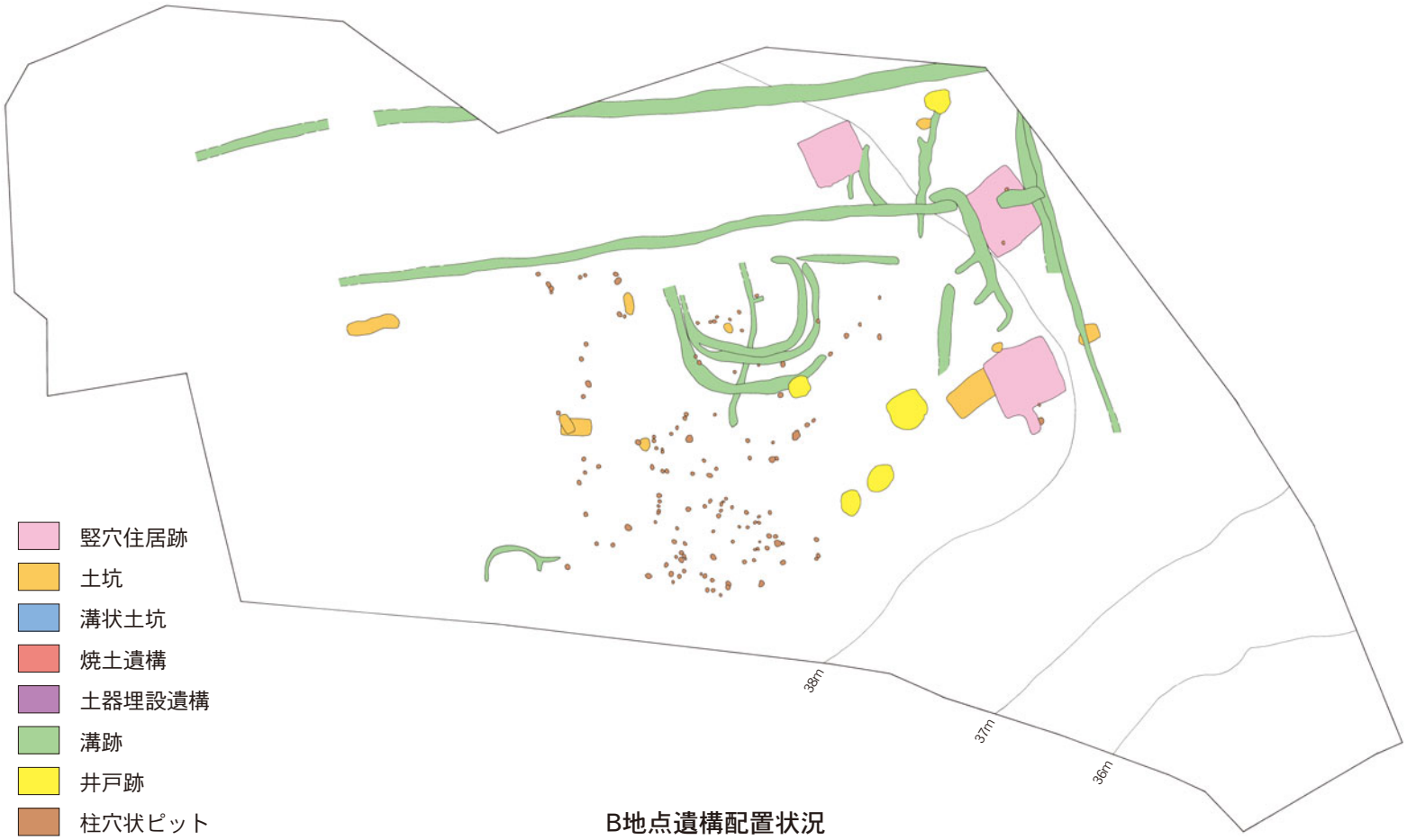
調査対象範囲図



A地点遺構配置状況

作業風景

作業風景



B地点遺構配置状況

検出遺構

竪穴住居跡

平安時代の竪穴住居跡が、A地点で4軒、B地点で3軒、計7軒見つかっています。

両地点間の分布は途切れており連続しません。また、B地点では今年度調査区の東側に偏った分布となっており、今後の調査で分布範囲はさらに東側へ広がる可能性があります。

住居跡の平面形は、方形を呈しており、規模は一辺が3～4m程度です。7mを超す大型の住居跡も1軒見られます。単なる住居とは、少し違う場所だったのかもしれません。

4軒の壁際では煮炊きを行うカマドが見つかっています。うち3軒は南側の壁にカマドを設けていますが、A地点の1軒は北側の壁に設けています。またこの住居跡を含む2軒は、煙が外に出て行く煙道が他と異なり地山をトンネル状に掘り込んでおり、構造にも違いが見られます。

床からは建物を支える柱を立てたと思われる柱穴や壁を巡る壁溝が見つかっています。

竪穴住居跡

カマドが北側の住居跡

溝跡

両地点合わせて22条が見つかっています。

今年度の調査区だけでは全体の姿が分からないものもいくつかありますが、南北方向、東西方向に直線的に走るものや、弧状に巡るものなどが見られます。また、A地点とB地点では、A地点の溝跡は、幅が広く深いもので、それと比較すると、B地点の溝跡は、幅が狭く浅いものです。また、A地点の溝跡の堆積土からは、平安時代の土師器や須恵器などの遺物が見られるものの、B地点では遺物がほとんど見られず、まれに、破片が少数出土するのみの状況です。

ただ、どちらの溝跡も竪穴住居跡等の他の遺構と重複する場合には、重複する遺構よりも新しいと判断される点が共通しています。

なお、A地点の溝跡では、堆積土に平安時代の降下火山灰が層状に堆積する状況を確認しており、時期の下限が推測されるものも見られます。

A地点の溝跡

B地点の溝跡

土坑

24基の土坑が見つかっています。平面形が長方形を呈するもの、円形、楕円形を呈するものなどがあります。深さは50㎝未満の浅いものが多いようです。遺物の出土があまり見られず時期等については、大半が不明です。

土坑

井戸跡

B地点で5基が見つかっています。平面形は円形、楕円形で、断面形は、上側が大きく広がっているものと、下側に比べて少しだけ幅広いものとがあります。いずれも時期を判断できるような遺物の出土はありませんでした。井戸の内部で、多数の礫が敷かれたように同じ深さに広がっており、意図的な行為が感じられるものが1基見つかっています。

井戸の中の礫

溝状土坑

A地点で2基が見つかっています。平面形は細長い形状をしており、長軸方向は、南北、東西方が各1基です。幅は、第1号溝状土坑の方が幅広くなっていますが、この差は使用後に崩れた影響によるものと思われます。

どちらも遺物の出土がなく、明確な時期は不明ですが、縄文時代の遺跡で見つかる落とし穴とされる遺構と形態が同じことから、縄文時代の遺構である可能性が考えられます。

溝状土坑

柱穴状ピット

柱穴状ピットは148基が見つかっています。多くはB地点で見つかっており、その中でも特に中央部南側で密度が高くなっています。

出土遺物はほとんど見られず、時期不明なものが多数です。用途も不明ですが、他遺跡の例では、建物跡や杭、柵等の用途が見られるようです。

柱穴状ピット

土器埋設遺構

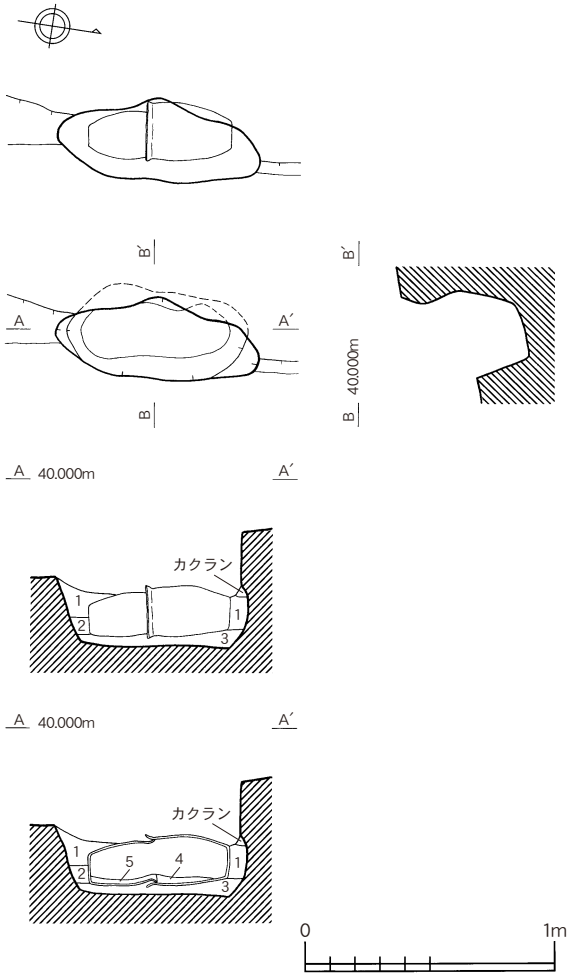
A地点で平安時代の土器埋設遺構が1基見つかっています。土師器の甕2個体の口の部分を合わせて、平面形が楕円形を呈する穴に横位に埋納しています。「合口甕棺」、「合口埋甕」などと呼ばれるタイプの遺構です。

本遺跡で見つかったものは、第2号竪穴住居跡の西壁際に位置しています。住居跡堆積土を掘り下げていく途中で横位に納められた甕が出土し、また、甕が納められた楕円形の穴が見つかって確認しました。そのため、甕が納められている穴の西側は第2号竪穴住居跡を確認した面ですが、東側は住居跡の床面での確認となっており、ほぼ住居跡の深さの分、高さが異なっています。本遺構と住居跡との重複等の関係については、堆積土の断面観察はできませんでした。

甕が納められていた穴は、平面形がやや長い楕円形状を呈しており、長軸幅は82cm、短軸幅32cm、深さは西側で45cm、東側で21cmです。長軸方向は、ほぼ南北方向と重なります。穴の断面形は、西側でややオーバーハングし、袋状を呈していますが、東側では底面から外側へ真っ直ぐ立ち上がっています。また、底面はおおむね平坦ですが、西側から東側に傾斜しています。

納められていた甕は、器高が34cmと28cmで大きさが異なっています。小さい方の甕の口の部分を大きい方の甕の口の中に4cm程入れた状態で重ね合わせ横位に穴の中に納めていました。

第１号土器埋設遺構



合口甕の出土状況1

合口甕の出土状況2

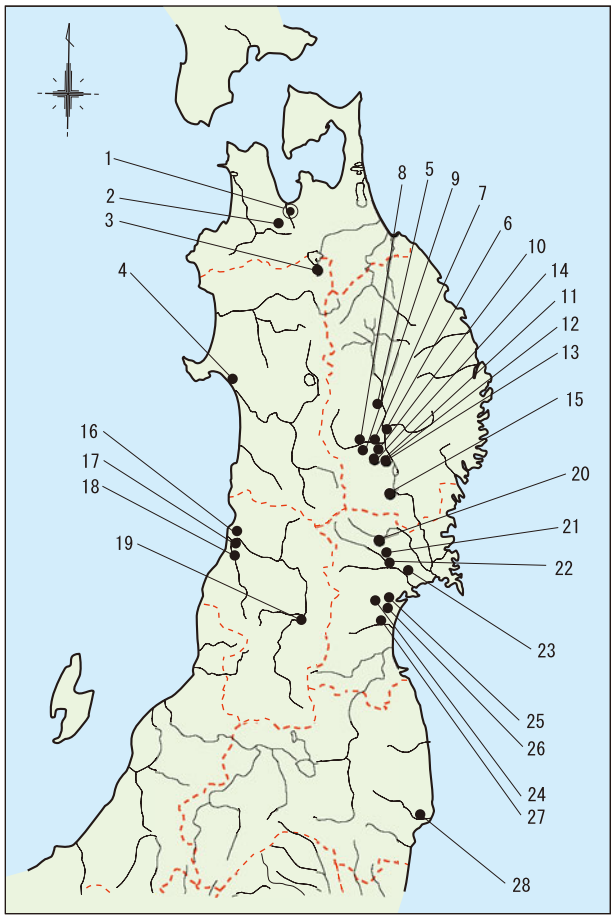
甕の内部は両方共に、ほとんど空の状態で、下部に数cm程土が入っていました。その他に遺物等は見つかっていません。

このようなタイプの遺構は、青森県内の他遺跡の調査例では、浪岡町の野尻（1）遺跡の発掘調査で1基見つかっていますが、本遺跡で見つかったものは、それに次ぐ検出例と思われます。また、東北地方では、下図に見られるように各県に類例が見られますが、特に太平洋側の岩手県、宮城県での検出例が多いようです。

納められていた甕

この遺構の用途については、人骨片や歯が検出された事例や内部の土壌分析の結果等から主として乳幼児を対象とした特殊な埋葬施設であるとする説や、当時の道路上や道路の交差点付近での検出例が多いこと等から道路に関連する地鎮等の祭祀施設であるとする説も見られるようです。

本遺跡では、用途を明確にできるような状況は確認していませんが、今後の調査も合わせての集落内全体の遺構配置状況や、今後予定している内部の土壌分析などから、さらに用途の検証が必要であるものと思われます。



東北地方の検出例

番号	遺跡名	県名	市町村名
1	合子沢松森（2）遺跡	青森県	青森市
2	野尻（1）遺跡	青森県	浪岡町
3	中の崎遺跡	秋田県	鹿角市
4	秋田城跡	秋田県	秋田市
5	西田遺跡	岩手県	紫波町
6	小瀬川館跡	岩手県	花巻市
7	八幡遺跡	岩手県	北上市
8	本宿羽場遺跡	岩手県	北上市
9	比丘尼沢遺跡	岩手県	北上市
10	東大畑遺跡	岩手県	水沢市
11	真城が丘団地遺跡	岩手県	水沢市
12	上野遺跡	岩手県	水沢市
13	中林遺跡	岩手県	水沢市
14	松原前遺跡	岩手県	胆沢町
15	本町Ⅱ遺跡	岩手県	平泉町
16	山海窯跡群	山形県	平田町
17	千河原遺跡	山形県	余目町
18	西谷地遺跡	山形県	鶴岡市
19	高瀬山遺跡群	山形県	寒河江市
20	佐内屋敷遺跡	宮城県	築館町
21	手取遺跡	宮城県	高清水町
22	名生館遺跡	宮城県	古川市
23	須江関ノ入遺跡	宮城県	河南町
24	山王遺跡	宮城県	多賀城市
25	高崎遺跡	宮城県	多賀城市
26	市川橋遺跡	宮城県	多賀城市
27	安久東遺跡	宮城県	仙台市
28	愛谷遺跡	福島県	いわき市

出土遺物

本遺跡で出土した遺物には、平安時代の土師器や須恵器、縄文土器、石器、土製品、石製品、鉄関連遺物等があります。これらの遺物は、一部が遺構外からですが、大半は竪穴住居跡や溝跡等の遺構の堆積土中から見つかっています。

本遺跡の主体である平安時代の遺物には、土師器、須恵器、土製品、鉄関連遺物があります。

墨書土器

土師器

土師器は、坏、皿、甕が見つかっています。

坏は、内面を黒色処理しているものと、していないものとが見られます。ロクロを用いて製作されており、底面には底部切離しの際の糸切痕が見られます。

皿は、体部に「寺」という文字が書かれている墨書土器が見られます。

甕は、口縁部断面がやや内湾するものが多く見られます。また、器体に炭化物が付着しており、煮炊きに使われたと思われるものが見られます。

須恵器（坏）、土師器（甕）、須恵器（壷）

須恵器

須恵器は坏、壷などが見つかっています。坏の中には体部にヘラ書きで記号の見られる刻書土器が見られます。縦位に川の字状に3本の線が見られるものや、三角形状の記号が見られるもの

土師器

があります。壷には、長頸壷と広口壷が見られます。これらの須恵器はおおむね五所川原産のものと思われます。

土製品

平安時代の土製支脚とミニチュア土器が見つかっています。土製支脚は、おそらくは住居跡のカマドで使用されていたものと思われます。ミニチュア土器は、盃ほどの大きさで手づくねで作られています。

鉄関連遺物

鉄関連遺物は、刀子、釘などの鉄製品と鉄滓とが見つかっています。製品だけでなく、生産途中で生じる鉄滓も見つかっていることから、本遺跡で生活していた人々が鉄製品の生産に関っていた可能性も考えられます。

縄文土器

縄文土器は、早期、前期、後期の土器が見つかっています。早期の土器は、底に近い部分も見つかっており、尖底土器と思われます。前期の土器は、器面に縄文が見られます。また、後期の土器は、器面に沈線文を曲線的に施しています。

石器

石器は、敲磨器が見つかっています。敲磨器には、器面や側縁に物を擦った擦痕の見られるものや、器面や側縁端部に物を敲いた敲打痕の見られるものがあります。

石製品

石製品は、五輪の塔のような石塔ないし石燈篭の頂部と思われるものが見られます。下部の台状の部分の有無や頂部が丸みを帯びるものと、やや尖るものとが見られます。いずれもB地点から見つかっており、この地点には昔神社があったとのことで、その神社との関係があるものかもしれません。

支脚

ミニチュア土器

縄文土器

石製品

ま　と　め

本遺跡は、青森市大字合子沢字松森に所在し、合子沢川に侵食を受けた火山性台地の河岸段丘上、標高35～50mに位置しています。平安時代の集落跡を主体とする遺跡です。

今年度、当委員会では面積3,500㎡の発掘調査を実施しました。調査区は西側A地点と東側B地点とに分かれており、標高はA地点がB地点より2m程高くなっています。

調査の結果、竪穴住居跡7軒、土坑24基、土器埋設遺構1基、溝状土坑2基、焼土遺構2基、溝跡22条、井戸跡5基、柱穴状ピット148基の遺構が見つかっています。また、平安時代の土師器、須恵器や縄文土器、石器、土製品、石製品、鉄関連遺物等ダンボール箱で25箱分の遺物が見つかっています。

竪穴住居跡は、同じ遺跡内ですが分布は連続しておらず、地点別でまとまりが見られます。また、カマドの構造や設置する壁に差が見られることもあり、個々には若干の時期差があるものと思われます。溝跡もA地点とB地点とでは、幅、深さなどの規模や断面形の形態が異なっており、両地点の違いは、時期差だけでなく用途の違いである可能性も考えられます。土器埋設遺構は1基のみの検出でしたが、2個体の甕の口を合わせて横位に穴に納める「合口甕棺」、「合口埋甕」などと呼ばれるタイプのもので青森県では浪岡町野尻（1）遺跡で見つかったものに次ぐ検出であるものと思われます。

本遺跡は平安時代が主体ですが一部、縄文時代と思われる溝状土坑や縄文土器も見つかっています。特に縄文時代早期の尖底土器が見つかっており、本遺跡周辺には多くの遺跡がありますが、早期の遺物は必ずしも多くは出土していないことから、この点も本遺跡の調査成果の一つであるものと思われます。

なお、今年度の調査によって、調査前に本遺跡範囲の端部であったB地点東側で竪穴住居跡や溝跡等の遺構を検出したことから、遺跡範囲並びに新幹線建設に係る調査対象範囲を東側に広げることとなりました。

当委員会では今後も本遺跡の調査を予定しています。今年度の調査で一部の確認に留まった個々の遺構の全体形や、それらを合わせた遺構種別の土地利用状況や時期差、遺跡範囲の広がりなど本遺跡の性格が今後の調査でより明らかになっていくものと思われます。

作業風景

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財 1　1962『三内霊園遺跡調査概報』
〃 2　1965『四ツ石遺跡調査概報』
〃 3　1967『玉清水遺跡調査概報』
〃 4　1970『三内丸山遺跡調査概報』
〃 5　1971『野木和遺跡調査報告書』
〃 6　1971『玉清水Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
〃 7　1971『大浦遺跡調査報告書』
〃 8　1973『孫内遺跡発掘調査報告書』
1979『蛍沢遺跡』
1983『四戸橋遺跡調査報告書』
青森市の埋蔵文化財　1983『山野峠遺跡』
〃　1985『長森遺跡発掘調査報告書』
〃　1986『田茂木野遺跡発掘調査報告書』
〃　1987『横内城跡発掘調査報告書』
〃　1988『三内丸山Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書
〃 第16集　1991『山吹（1）遺跡発掘調査報告書』
〃 第17集　1992『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』
〃 第18集　1993『三内丸山（2）遺跡発掘調査概報』
〃 第19集　1993『市内遺跡発掘調査報告書』
〃 第20集　1993『小牧野遺跡発掘調査概報』
〃 第21集　1994『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃 第22集　1994『小三内遺跡発掘調査報告書』
〃 第23集　1994『三内丸山（2）・小三内遺跡発掘調査報告書』
〃 第24集　1995『横内遺跡・横内（2）遺跡発掘調査報告書』
〃 第25集　1995『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃 第26集　1995『桜峯（2）遺跡発掘調査報告書』
〃 第27集　1996『桜峯（1）遺跡発掘調査概報』
〃 第28集　1996『三内丸山（2）遺跡発掘調査報告書』
〃 第29集　1996『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃 第30集　1996『小牧野遺跡発掘調査報告書』
〃 第31集　1997『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃 第32集　1997『桜峯（1）遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃 第33集　1997『新町野遺跡試掘調査報告書』
〃 第34集　1997『葛野（2）遺跡発掘調査報告書』
〃 第35集　1997『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃 第36集　1998『桜峯（1）遺跡発掘調査報告書』
〃 第37集　1998『新町野遺跡発掘調査報告書』
〃 第38集　1998『野木遺跡発掘調査報告書』
〃 第39集　1998『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃 第40集　1998『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃 第41集　1998『野木遺跡発掘調査概報』
〃 第42集　1998『熊沢遺跡発掘調査概報』
〃 第43集　1999『市内遺跡詳細分布調査報告書』
〃 第44集　1999『葛野（2）遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃 第45集　1999『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃 第46集　1999『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
〃 第47集　1999『稲山遺跡発掘調査概報』
〃 第48集　2000『熊沢遺跡発掘調査報告書』
〃 第49集　2000『稲山遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃 第50集　2000『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃 第51集　2000『桜峯（1）・雲谷山吹（3）遺跡発掘調査報告書』
〃 第52集　2000『大矢沢野田（1）遺跡調査報告書』
〃 第53集　2000『市内遺跡発掘調査報告書』
〃 第54集　2001『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃 第55集　2001『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
〃 第56集　2001『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
〃 第57集　2001『稲山遺跡発掘調査概報Ⅲ』
〃 第58集　2001『大矢沢野田（1）遺跡発掘調査概報Ⅱ』
〃 第59集　2001『市内遺跡発掘調査報告書』
〃 第60集　2002『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
〃 第61集　2002『大矢沢野田（1）遺跡発掘調査報告書』
〃 第62集　2002『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
〃 第63集　2002『稲山遺跡発掘調査概報Ⅳ』
〃 第64集　2002『市内遺跡発掘調査報告書』
〃 第65集　2003『雲谷山吹（4）～（7）遺跡発掘調査報告書』
〃 第66集　2003『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
〃 第67集　2003『深沢（3）遺跡発掘調査報告書』
〃 第68集　2003『近野遺跡発掘調査報告書』
〃 第69集　2003『市内遺跡発掘調査報告書11』
〃 第70集　2003『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
〃 第71集　2004『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
〃 第72集　2004『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
〃 第73集　2004『新町野遺跡発掘調査概報』
〃 第74集　2004『市内遺跡発掘調査報告書12』
〃 第75集　2004『江渡遺跡発掘調査報告書』
〃 第76集　2005『栄山（3）遺跡発掘調査報告書』
〃 第77集　2005『赤坂遺跡発掘調査報告書』
〃 第78集　2005『三内丸山（8）遺跡発掘調査報告書』
〃 第79集　2005『市内遺跡発掘調査報告書13』
〃 第80集　2005『合子沢松森（2）遺跡発掘調査概報』
〃 第81集　2005『石江遺跡群発掘調査概報』

報　告　書　抄　録

ふりがな	ごうしざわまつもりかっこにいせきはっくつちょうさがいほう
書名	合子沢松森（2）遺跡発掘調査概報
副書名	
巻次	
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第80集
編著者名	小野貴之
編集機関	青森市教育委員会
所在地	〒030－8555　青森県青森市中央一丁目22－5　TEL 017－734－1111
発行年月日	西暦2005年3月8日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ごうしざわまつもり 合子沢松森(2)	あおもりしおおあざ 青森市大字 ごうしざわあざまつもり 合子沢字松森ほか	02201	262	40° 45′ 54″	140° 45′ 32″	20040819 ～ 20041119	3,500	新幹線建設工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ごうしざわまつもり 合子沢松森(2)	集落跡	縄文 平安	竪穴住居跡　7軒 土坑　24基 土器埋設遺構　1基 溝状土坑　2基 焼土遺構　2基 溝跡　22条 井戸跡　5基 柱穴状ピット　148基	土師器 須恵器 縄文土器 石器 土製品 石製品 鉄関連遺物	土器埋設遺構は、合口甕棺、合口埋甕等と呼称されるもので検出例としては、青森県内で二例目となるものと思われる。

青森市埋蔵文化財調査報告書　第80集

合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報

発行年月日　平成17年3月8日
発　　行　青森市教育委員会
〒030-8555　青森市中央一丁目22-5
TEL 017-734-1111
印　　刷　第一印刷株式会社
〒038-0003　青森市石江字江渡3-1
TEL 017-782-2333